

※答えは全て解答用紙に記入しなさい。

受験番号

( )

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

工藤さんによれば、白神の土地はもろく、しばしば山崩れを起こすという。山崩れを起こした土地は裸地となつて草が生い茂る。一種の攪乱地形である。山菜ともいわれるある種の草本はこういう攪乱地形を好んで生える。マタギの人々もそうした土地に生える山菜を、採りながらも護つてきた。例えば採集にあたつて株の一部を残すとか、切り口が腐らないように手当てをするという具合である。彼らはまた、山菜、キノコをはじめ、さまざまな物資を手に入れるために山に手を入れてきた。マタギの人たちは、白神の森を全くのアンタッチャブルの森としてみてきたのではない。大事な資源の再生を考えながら森を育ててきたのである。それは、原始の森ではない。そこはまさしく人の手の入った森——里山なのである。

「A」、世界遺産に指定されたのは、「自然の森としての白神」である。自然遺産と銘打った以上、そこに人の手が加わることは許されない。「B」白神も、その中心の部分では人の手を加えることが一切禁止されているという。だがそれではマタギの人々の生活は護れない。マタギの人々を含めて立ち入りや生業を禁止することで白神のブナの森が護れるというなら、それはそれで一つの選択なのかもしれない。だが、マタギを含めた人々の手を遠ざけることで、ブナの森は護れるのだろうか。私はそこに疑問を抱いている。もつと直截に言うなら、白神のブナの森を原始の森と位置づけることの正当さを、私は疑つてみたいのである。

私たちは、ともすれば人間と自然とを機械的に対峙させ、自然を護るということを、人を排除することだと考えがちである。自然の中には、人間を寄せつけない自然があるのも確かだろう。だが多くの「自然」には、大なり小なり人間の手が加わっている。「C」元来、人は自然の一構成者にすぎない。そして私たちが日常目にする「自然」は、大なり小なり人の手を受けて成立してきた「自然」なのである。そこから人の手を排除するなら、目の前の「自然」は早晩、その姿を変えてゆくことだろう。

佐藤洋一郎「森で起きていること」

問一 「A」〜「C」に入る語句として最も適切なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、

記号で答えよ。

ア ところで イ だが ウ だから エ そのうえ オ あるいは

問二 波線部「手」と同じ意味で「手」という漢字を用いている言葉を次の中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 手を高く挙げる。イ 合いの手を入れる。ウ 手負いのクマ。エ 仕事の手を休める。

問三 傍線1「彼ら」とは誰を指すか。文中から抜き出せ。

問四 傍線2「自然の森」を言い換えた語句を、文中から十字以内で抜き出せ。

問五 傍線3「白神のブナの森を原始の森と位置づけることの正当さを、私は疑つてみたい」とあるが、筆者がこのように言うのは、白神のブナの森をどのようなものだと思つているからか。三十文字以内で説明せよ。

問六 傍線4「自然」のように、「」付きの表記を用いた筆者の意図として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア 人の手の入った自然と手つかずの自然を区別し、問題提起の対象とする自然の範囲を明確にする。

イ 人の手を受けて成立してきた自然を強調することで、自然とは何かという問題提起を明確にする。

ウ 人の手が加わった自然を区別することで、護るべき対象とする正当な自然の範囲を明確にする。

エ 日常目にする自然と人間を寄せつけない自然を区別し、姿を変えてゆく自然の範囲を明確にする。

【二】幼少時代を過ごした町を訪れた筆者は、当時のことを思い起こしている文を読み後の問いに答えなさい。

私の記憶はこの町に引越してきた日から始まっている。大事にしていたピアノのおもちゃを、隣に住む男の子に素足で踏み抜かれて激しく泣いた記憶から。

ということに長年なっていたのだが、正確なエピソードであるかどうか疑わしいのではないかと自分の記憶への階段を降りていって、問いかけてみる。ピアノを踏み抜かれたのは、実に悲しい気持ちだが、案の定、いつの間にかおかしみが大きな顔をして鎮座して、悲しみとなれなれしく対話している。もしやこのおかしみが悲しみの記憶を捏造したのではあるまいか。私がそう思ったとき、<sup>①</sup>それが通じてしまったのか、おかしみはAやおら立ち上がり、じゃ、そろそろ帰るよ、みたいに片手をあげた。と、悲しみはふるふると揺れて、おかしみの身体に背後から抱きついた。行くな、ここにいてくれ、の気持ちを表す身体表現の一つである。

ピアノを踏み抜いたのは、ほんとうは誰？

おかしみが立ち上がった瞬間、そんな疑問が浮かんた。おかしみの足が悲しみを背中にはりつけたまま一步を踏み出した。おかしみの足先が消えかかる。と、ピアノを踏み抜く足の映像のその足が、子どもの足から大人の足に変化した。ピアノを踏み抜いたのは、隣の子ではなくて、隣のおじさん？ それとも、おとうさん？ もしかすると、おかあさん？ 私のなにより大事なものを、力をこめて壊した人物が？ <sup>②</sup>まさか……。おかしみが、まだ消えていない足をもちあげようとするので、ストップ！ をかける。わかった、もう、君たちの安定した記憶を疑わないことにするから。

私は<sup>③</sup>最初の記憶の部屋の扉を閉じる。そして思う。そもそも私は、おもちゃのピアノなんて持っていたのだろうか。扉の向こうでカタリ、となにかが落下するような音がする。扉の向こうに、ごめん、と軽く私はアアヤマる。さまざま要素を取捨選択、かつ<sup>④</sup>若干脚色されて固められた記憶には、それぞれの記憶ごとの理由があるはずなのだ。それを揺るがす想いを浮かべることにかすかなうしろめたさを感じたのだ。私の記憶は私のものなのだから、アアヤマる、というのは妙なことだが。

私が変われば記憶も変わる。記憶が変われば私も変わる。記憶のなかに<sup>⑤</sup>オンゾンしてきた町は、現実の時間を<sup>⑥</sup>変わっていく。川が道路になり、あったはずの建物が消えている。ピアノを踏み抜かれたはずのあの部屋のあったはずのアパートは、なくなっていた。かわりにオレンジ色のタイルの貼られたマンションがどっしりと建っている。

東 直子「流転」

問一 傍線部ア～エについて、カタカナは漢字で、漢字はその読みをひらがなで書け。

問二 波線部A「やおら」と似た意味をもつ語を、次から選べ。

ア 軽快に    イ 急に    ウ 無理に    エ ひっそり    オ ゆっくり

問三 傍線部①の「それ」がさしている内容として、最も適切なものを、次から選べ。

ア ピアノを壊した男の子を許していないこと。

イ 幼い記憶を揺るがす事実を思い出したこと。

ウ 自分自身の記憶を疑わしく思っていること。

エ ピアノへの思い入れが薄れてしまったこと。

オ 両親に聞いた話を完全に信じていないこと。

問四 傍線部②とあるが、筆者が制止したのは、なぜか。次の一文の空欄を補うのに最も適切な語句を、本文から二十字以内で抜き出して書け。

幼いころ、筆者にとつて「        」が、父か母かもしれないとは思いたくなかったから。

問五 本文16行目までの表現について説明した、次の一文の空欄をそれぞれ補い、文を完成させよ。なお、        には本文中の語句を、        には表現技法を補うこと。

筆者の悲しみの記憶が、「        」によって書き変えられたかもしれないことを、  
「        」を用いながら表している。

問六 傍線部③とあるが、「最初の記憶」とは何か。本文中から一文で抜き出し、その最初と最後の五文字を抜き出して答えなさい。ただし句読点も字数に含みます。

問七 記憶は筆者にどのような影響を与えていると言えるか。最も適切なものを、次から選べ。

- ア 多面的な現実から選び取った真実として、筆者の強い信念を支えている。
- イ 筆者が体験した事実かどうかには関係なく、現在の筆者を形作っている。
- ウ 時間とともに固定化していき、筆者の柔軟なものの方を制限している。
- エ 正確な事実だけが積み重ねられ、筆者の考え方の基盤が形成されている。
- オ 事実の断片を都合よくつなぎあわせられ、筆者の心の支えとなっている。

### 【三】

次の短歌の作者を後の語群から選び、その記号を答えなさい。

- ① その子二十櫛にながるる黒髪のおごりの春のうつくしきかな
- ② 死に近き母に添寝のしんしんと遠田のかはづ天に聞こゆ
- ③ いちはつの花咲きいでて我目には今年ばかりの春行かんとす
- ④ 春の鳥な鳴きそあかあかと外の面の草に日の入る夕
- ⑤ 東海の小島の磯の白砂に

われ泣きぬれて  
蟹とたはむる

(語群)

ア 石川啄木    イ 与謝野晶子    ウ 正岡子規    エ 斎藤茂吉    オ 北原白秋